通詩選諺解

完

208
99

国立国会図書館　　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

通詩選諺解

全

208
99

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

天明四丁未春發行

狂詩諺解

東都 四方山人撰

耕書堂藏

叙

觚不觚五德為四角尺有所短三尺棒何減六尺棒故不入大門者不知人倫附合不覈芝居者惡識玉也大入膠柱易三絃之調刻

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

舟探花火〻玉。測海以業平
之蜆貝。割新用牛刀〻
唐丁。則笑見笑於大通之
家。予嘗作通詩以授杵屋
仙女。五絶部伝會席人口
三度目馬鞍。駟不及舌鳴

序一

呼。地獄非遠。滄海変為桑
地。極楽在近。即席怨出料
理。方是〻時。閑巷〻士定二
七三八〻日。与區〻坊主撫
付〻天窓。好語陳奮弱不
不通〻至乎。

序二

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

玉蟾丁未 孟正月
四明山人書于巴人亭
新宅

狂詩諺解

四方山人編選

七言絶句

郭中禮日 大門

正月二日酒盃臺茶席茶莚勸客杯
人情已厭舊冬苦高慢那從北里回

国立国会図書館 狂詩諺解 208-99
ガラス使用

河東松の内 より云二日ハ茶屋よみの日とて〻云〻
茶席茶莚と ハ茶屋の事である客よ盃とも〻めく
おめでたうかざんも〻らの所あり 諺草 女郎買
のぬうみを ゆ〻して旧冬の苦ハ忘れ〻御事さんど
をけんの一徳よ松〻やの古風ハありがてくあつぎや
のあけ巻もきれいく〻高慢ら〻くかるを云

至松葉（マツバヤ）

御祝言

三日翠簾樂席遊今春諸客作群集
獨憐傾國人盤昌不似親仁顔腹立

吉原細見五葉 松序 よ云若こゝより春五こゝひり松のうちよりけ
松やく〻の年ゆ〻まで古今れ色も中の町ゆ〻ゆ
たゝんものの松よりて何をやと云こゝあもゝき
ハの松葉屋のおいゝん康川のゆれ〻せんゝく松人
乃言の葉うけゝもにきゝこゝ姫松乃いく〻よ代ゝ
ゆ〻ゝよゝれゝこゝたりとみ〻玉ゝれの内ゝゆ〻き

盤昌の里ゆゝ

松の内 よ云三日ハ客れきゝこゝ又 四方巴人集
かゝひゝゆ客ゝこゝのゝ芝乃弘着ゝ春のゆ〻き
かりゆゝかゝとゝゆり
かゝゆ美人の百乃媚と親父ゝ顔の十面〻八日とおゆ〻
ゝてゝゆべゝゝ

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

贈朱椀朱器

知君茶器本翩翩為許開爐赴席邊

高慢會中應計直根来山下有經年

如そ〻まくあもこごてくか茶器がめるゆくろびゝゑそして
會席をひゝくくであるこの朱こん朱をゑはゝをかう
まんかりのこく根来こんのかきをんもちやくむちや
うくくもこゝいゝゝ御料理のちや席におろちや

戲贈丁子君美人

紅粉青娥映素顔櫻花坐上二丁間

野夫獨向閨房去謾學釋迦入涅槃

金羅傳 娘女郎は顔の二丁目ゝゆゝふ二丁目の
てうちんハ芝居の板ぐいゝゝ出るものゝ
てゝしや内てゝ山ゝハふゝんとんのてゝちんの相
ゆゝゝ見ゝいかゝれ大じんもこのさゝふきるゝひ
出よひゝゝりねまやゝのゝ名代ゝゝゝ移ゝんの家よ
入りしゑぜい三ッゆゝんのあゝき戸よひふつるのゝご
りハ千山万山大ま叶ゝゝよ字のゝんざゝ新ぞゝ
ゝぶゝよいゝゝまでいづれ世ゝゝハかいゝゝゝとせゝゝ

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

さんの直ぐなるもの〜なりそりつけといふ　櫻花坐上〜ハさく〜の花ろ

長壽臺　悠亭主

長臺便緩掃風塵亭主圓窓泉水濱

即今安坐尻堪痛況復九年面壁人

長壽臺能書　第一ゐろんの長坐　遊君のそり見世　きん番のたいろつ下畧一名延壽臺ともいふよ〜くひまろ男の作と

えんくさり　九年面壁　傳燈録　「ようくるゐんぞんぞる夜もひるも赤い衣きて壁とゐ〜こゐる故事」

坊様　眞元氣

北越山中列角兵饅頭煎餅對羊羹

庭中七尺蜻蛉返門外唯聞太鼓聲

角兵とハ角兵獅子の事であるまんぢうせん屋ゐい　あまいものゝや

川柳傳　越後獅子五百ゲまろ〜　立ぐ〜こと　按ず角兵ちく〜猶うくのごと〜いろんや九一よとろ〜とや

送奥道者遊順禮

宋之陪

御客賞歡此地違木賃數處青蠅飛
補陀落下長相憶秩父山中去不歸

千里の客ハあれども伯樂ハうねあ〜んとうや　木賃とハきぞうとてそるぐどりやーむ事ぞとれとを宿屋めー盛よきけり　秩父詠歌　ゆぐ〜〜くやきーうるうるとのれのこぐりてりのととハ同行　百人一首　の哥ぐわる

振雙六

重井

大津一望禁庭秋日見子供簸上遊
聞道島田不可渡心隨洪水共悠悠

道中双六　ゑ云ひろつのまれで大津へくる下畧又　戀女房染分手綱　ゑ云こんくゆらんぜうちゆんぜこれして五十三次の十云云　道中双六島田之條下　ゑ云大水ゑて三日のとうつとう按ゑ土塚の居風呂大磯の力持箱根の手形とととん吉田のとまらんせ荒井のちんがう亀山の大雨水口の虚無僧等一々筆ゑつーかゑ〜　異本　夷歌連中双六　ありこん後人のあととろ一向とうゐ

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

奥州詞　大瘤

座頭茱萸茶椀盃欲飲三線夢中催
醉唱仙臺君莫笑古来音曲幾人哀

諺草　ようこ座頭の茱萸とゝふさやうかと云ふ人へうるこんざう未詳　碁太平記七り目　ようこうる宮城野志のよの仙臺ことばも此事あり　按甲辰のゝ　森田座顔見世大帳　第一をん目二をん目の間　蜘蛛絲幼稚問答　と引くゝふきや町太夫元久ケと　あり　狂名橘太夫元家ふて仙臺座頭の藝ありみふ人感歎せざる事あり　まことに名人ぞ　△りキル

この詩もゝ仙臺座頭の淨るりとのべゝ結句はむりしの人とゐりせゝる心持ふゝ幾人哀とにゝれる名さぞしハ韵字よてこどゝれる名どゝふかんざ光とくるの門名

二丁町詞

隈想衣裳髪想容春風拂檻棧鋪重
若非東側棧鋪見會向三階樂屋逢

其二　二間つゞれあり

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

牡丹紅葉菊凝香　顛眉澤山宗十郎
借問三升誰得似　可憐海老倚威光

牡丹紅葉と一説ニ吸物の事とせし甚非なり牡丹ハ福牡丹
ふく三升の紋紅葉ハ四ツもみぢにて新車の紋
菊ハ名代の瀬川帽子なるむらさきや大明神さながらくり乃
其中ニ名ハかくれなき宗十郎澤山の字ハ澤村のことぢ
つけ東夷南蛮北狄西戎天地乾坤第一市川五代目
の親玉花道にて孫ときてハされバ肩をならぶべきそその
嫡流とうけつぎしいづこやのむすこさん七戈とかく宝珠
のさる威光ちやくおいらちハうかいのものやなア、つゞも

其三とハ三ヶ月の事也あかぐちさうでも逸

立花銀杏兩相歡　各得町中帯笑看
拜借市村無限座　桐長桐櫓倚闌干

川柳點ニ云左近のさくらそな右近の銀杏なり
顔見世肴板口上ニ云御町中様ますくれきげんよく　下略
桐氏家譜ニ云元祖幸若与太夫　中略　女子長桐一犬桐一
坂桐一桐大内藏一千桐一大内藏一桐長桐元祖より天明
四年まで凡二百四十五年
同ゑぞうくれつらねニ云東夷南山の花橘北州まうくく

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

そのたぐひ〳〵ゝり時なるうゑ西山の桐長桐ゲ初ま

客僧行

棚経坊主清明香持佛拜来金箔光
但使主人能與百不知何處是西方

蘭臺先生孟蘭盆の詩あり左よ[illegible]て
孟蘭盆夜月如霜　我輩悲秋半疊床
素麺汁隨猪口冷　棚経銭雑雁頭長
灯籠深映三尊像　炉氣軽浮五種香
共説明朝齋日好　可参浅草閻魔堂
うら盆のていちの詩よにゝせり　そのそのくの白ひせん
香清明香　のま茶ふゝでハゆりねどもゝよハゝで百の
銭さゝとれで西ハゝゝらともゝねゝりまれお所化の
たゝりゞざるのゝ

岡邊山屋歌

岡邊山屋半丁秋影入熟湯豆腐浮
夜發大門向三谷思君不見下舩州

山屋ハ新吉原ヨリ名豆腐を出て岡邊ハ豆腐の異名朝ごりれ客茶屋ゆく湯豆腐を食ひ三谷堀乃舟宿まで来くも猶其味を忘れ心とのゞ　舩州ハ舩頭ヨリ

上戸醉巡南閨歌　二朱

誰道南樓行路分高繩西去萬人欣地轉八山爲御殿天廻九耀作相紋

ころりころとハ札の辻の事である　童謡ヨリ云ふ　八山ごてん山と云　星宿とハ京傳ゲ　天げの和句文ヨリも

五星七星十星の名ちなみ以く倡妓のあくと定るなり

其二

醉客往還寺柵門溪更戻駕若雲屯品川本宿開新宿雙掛行燈照國猿

生醉ゆくもぬのゆくりと往還ゆくいい駕よのりてゆくゆや　本宿ハ新宿ヨリ橋てまくより橋むりふまで茶屋のあんどう昼のごとくおさるれうのいりれとてらてゞや　國猿ハ四國邊淺黄浦ヨリいづるゆくゆ

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

南客文集ニ

聞菅丞相左遷太宰帥遥有此

寄

櫻花落盡女房啼聞道松王忠義齊

我讀菅原受傳授隨風直到梅花西

櫻花落盡ハ櫻丸ノ事　松王いりく女房

ゆくべぜゐれいおやくにんてハやいしくえん忠

義のゆくゑ　梅花ハ梅王ゲ事

ゆくくハ菅原傳授手習鑑ニ

秀鶴樓送路考丈出樂屋

美人上辭中二階櫻花霜月映招牌

矢倉遠影碧空出唯見長桐評判佳

中二階ハ樂屋のうち女形のゐる所とい

辰年桐座番附重重人重小町櫻花とハ

櫻花ハ名題ゆゑ

此顔見世新芝居

大あたりゆゑ

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

望大門口

衣紋坂曲大門開土手東連至北廻

両側青簾相對出遊山一片水邊来

吉原細見ニ云衣紋坂此所往来路三曲ありてゑもん
ゆゑ又ハさゑん又 娼妃地理記ニ云ゑもんさか両側青簾とハ
中の町茶屋のすゝんとゆゑ水邊とハ向島ゥ
まつさんゑうゑんでもゑゑ川邊

早蕨惡態言

朝衝惡態障人間千理口論一日頒

両町俠聲鳴不任喧嘩已過棒撞顔

あしたとハ者うりの買ざゝに行ゑうゑ惡態巻物
ゑ云おまくさゑの御ゆりハとりゑゑもとゑゑ 太平樂巻物
又 俠中俠惡鯛俠骨 ニ出さゑり 諺草 ニ云喧嘩過ての
棒ちぎり木按ニ馬鹿おつゝとゆゑゑゑのゝたの

童子格子

ゑゑゑゑり

秋下水門 淺草川の水門ゑり

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

霜落水門松樹同猪牙無恙走秋風

此行不為鯉魚味自愛名君入廓中

霜ゆれぬ柳ぞ一の柳ハちれども首尾の松ハいつもおなじとぞや秋風よそ〳〵ハ猪牙舟のくやきて

鉄炮玉よ帆とうけるぞ〳〵ゑとふいよとろろハ〳〵ゑでろけさのハむろ島のこいとゝいふハつけ〳〵りまとゝハ堀〳〵

あぐりのとゝ〳〵ゑとゝ世界なり一説よ名君の字ハ名山のなやまりありとゝハ名山の客ゝ未詳

所帯賃粉

吸飲切臺烟草香新家世帯不堪張

只今惟有定紋枕曾照鴛鴦比翼房

なゝ〳〵世帯ハとゝ〳〵たをとやゞ多いものゝゝゝや女房ハ大ゝさ川竹のあゞれの身よるゝ〳〵さゞゝゝぬ二ツまくゝゝゝ

とゝのゞ
ゝゝゝゝ

越中番子

越中犢鼻破尻頻番士還家搔總身

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

木風如花満縫目只今惟有懐中紉

史記 司馬相如越中ゑんぐ一つあり酒家のうせさんよはゝゝくとゝく按帆うけ舟の如きふゝゝとゝよ長サ三尺

とゝく番士ハ番太郎の事 木風 本門縫目 風の條下云花見風むづゞゆ味香ゝ有毒貧士好んでこれを喰ふ

と懐中紉ハ東都芝金杉より出る鍋屋の何某の秘方あり詩の心ハ[illegible]

龍宮曲

園城霊

昨夜射帰三上蚣龍宮前殿水波重

田原藤太新承寵案外功高賜釣鐘

三上山ハ近江なり田原藤太むかでとゝく龍宮で落とゝし事ハ 前太平記 又 龍都俵系圖 ゝ詳あり

西驛春艶 西驛ゝハ四谷とい

西樓夜静菖蒲香欲入桃園道路長

斜抱蒲團時見札朧朧月色院三光

春の詩ゝあやめさくとハ露ちゝぬとゝや桃園ハ中野の西二里ゝあり 時札ハ夜九時七時六時ありさそひあ

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

せゝく下るゆく八時をうくハかゝ
日くらしゝゝ稲荷神社あり初午ゆきゝやうあり雲楽
の別荘より近ゝたぬき
熊かどのゝもむ所なり

西驛秋艶

御封不及美人張止動風来牧草香
却恨投錢祈堀内空懸四谷待天王

御封堀内より出るゝゝ御封の事とゝ柱よゝりとゝ
七日めくゝよ上（あげてゝる三七二十一日よゝりてゝの
病いゆるとゝゝのあいゞ茉等と禁ゞて
止動 風来山人天狗髑髏縁起 ゝいとどゝくゝの文字ハあゝ
ても馬めゞ合点いゞさゝねバゝ下界 ゝりの内名ゝきの
うちゝるくゝゝいひくゝその暮のゝのことゝゝひくく
きれゝる客まゝ夏あゝり立ゝりて六月四谷天王のま
りのゝろゝれども又盆前ハ心ゝくゝあき七夕客をゝゝ

欲心祝詞

眞成見得久尋思夢得黄金覺後疑
火照行燈知妄想分明冨札立錐時

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

見得【撥思撈千金方】に云五臓の煩ハ夢とみえて一冨士二
鷹三茄子とみる時ハ千二百三十番と考ふられと見
得といふ其病治しがたく名づけてわんさが疾といふ
按かん應寺水いゑり第六天などハ事なりけり
今日に至てハ何人目くも出来
なり又【一冨見得秘傳書】にくわし

せいらうのきよく
蒸籠曲

白馬金轂従頼光童兒十五競衣裳
（はくばきんこくしたがふらいくわうどうじ十五きそふいしやう）

桟敷少婦飾花坐遥見飛塵上覧場
（さじきのせうふかざりてはなにざしてはるかにみるひぢんとびあがりてせうらんぞ）

せいらうハつまり物ちん上のせいらうなり詩の心ハ神田
祭をいへるなり【風土記】韓田神社とあり【江戸砂子】神
田明神ハ平親王将門の霊をまつる祭礼九月十五日と
云く頼光【神田御祭礼番附】七番よど町一丁目の条
下に云鬼のかしらの万度附祭頼光山入らいぢんむ
しや六きらい光おうせうさぶらうそくさけつかきん
とき馬上たるかぎのひゆくわたりひめそかりどふのり
六尺六人でおちろなのさしさく按又唐来参和があ
らハせし所の【頼光邪魔入】菱川春童が【大通山入】喜三
二丈の【鬼窟大通話】などハ少く異ハ同なり一決さがたし
童兒十五【同書番付】に出たる十五童子の祢りとのこと
といふ気ハ本高直が本に見へず猶たづぬべし

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

橋艶　橋ハ大橋なり

橋中少婦不知愁帽子凝粧列比丘

忽見百銅丸太色悔令折助覓梳油

梵網經ニ云比丘比丘尼ハ二百五十戒と云て按末世よりの諸戒の通用とする帽子ハ花帽子とも丸太和名抄比丘尼一名丸太風来山人志道軒傳ニ云大橋の丸太ハ一ツ四文銭ニ成ハ

このごろ梳油芝の大好菴両國の五十嵐と始て世談ニ世事よりの心ハ大橋のびくゝみ花の帽子よりの百銅のせゝ丸太ハ何心なくこゝろ付ハ

主あるものゝ人さぐりにもそれなりとつけく折助と

いふお客の足とうるぎとゝ

の色さめゆゝとそれ身の上

といふたゝあそれ

出精行

建部源藏望莨紙大方懸水無乾時

店賃高直門人絶扇子到来知是誰

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

建部源藏ハ手習師匠の名【菅原傳授手習鑑】みこゝろ
古歌にてあらはひハさうふくるゝをみてどこくゆるんとあれ
ぞたのしくありがたてとあるふ大なるさかしふ水とつけ
てあらかね子供とはふ扇子ハ弟子入のちまるしなり
【論語】ふもそれこゝづから束脩
以上を行へぞとありける

敗軍行
そのぐんこう　おてきにまけてにげゆくなり

火見面高百尺樓荒言獨坐屏風秋
ひのみつらたかしひやくせきのろう　くわうげん　どくざす　へいふうのあき

更吹口笛蒲團上無那野郎根付愁
さらにくちぶゑをふくふとんのうへ　せんかたなし　やらうのねづけのうれへ

火見とハ面の高き人に比していへり秋の長き夜屏風の内でひとりねざめのあぢきなさに口ぶゑ
とふきどうでもらちあきられずにくりなる詩なり野郎根
付とハひとりぶとんの上にねるくるらとなり

【神靈矢口渡】入道道哲云これね根付と
こゝらうにふとんのうへにおれそろりとえゝり

五明樓贈雛妓
ごめいろうにてしんざうにおくる

花扇連襟夜入床五明送客大門傍
くわせんゑりをつらねてよるとこにいり　ごめいきやくをおくるおほもんのかたはら

樂遊雛妓如相問一片執心在玉章
らくゆうのしんぞうもしあひとはゞ　いつぺんのしうしんぎよくしやうにあり

五明樓墨河の西燕都街よあり木地臘色の惣格子て
棟上の高き家あり花扇ハ二代の名家あり能書の
名ありたき川さけのあれきさ〳〵かさひたさふとそら
の人〳〵中の町の夕ぐくよ花ら人うとけやめらるとぬるら
のハ外よたぐひもなくといふぞりふなり楽遊
手毬歌 ちかさ女子供さらハらくあそびとうく

一片 新内節の曲 よ云義理一へんのあぐ
つきハけつく心のりあるくね下畧

柳太夫称豊前會歌 柳太夫ハ柳橋の太夫あり

陳珍

冨本流西満東最初先奏是齋宮

女子預開櫻草待紙今誰並大夫功

冨本ハ浄瑠璃の一流あり 齋宮ハ太夫の名高名あり
櫻艸ハ豊前太夫のく紋いてく鶴さらく草こそ人の
ある所あり 冨本豊前太夫門弟冨本豊の字を
ぬりて娘八百八町の出格子よりらくさりらくい

柳橋櫻艸 よえさり さて講釈あるばよちく御と
ぐり申上まする冨本流の板元ハ江戸通油町耕書
堂ぐどざります 御用の節ハありてあかさん
ませてあんのいそぐともよいとりあぐ

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

二

鳥落里長調子鳴三絃式佐競鼓繁榮

拂咬兼太夫迎座開幕常盤津照名

鳥落とハ飛鳥もおちるといふ事　里長姓ハ鳥羽屋故よくいふ式佐姓ハ岸澤ともふ三弦の名家なり

常盤津兼太夫の名ハ注するに及ばず世の人あまねく名の所なり小松川のかげんつきもぐりてときの松のひゝわよりぐりの色のまされるといふハむだなり

將棋玉助言

玉角徘徊望桂香飛車走去不称王

盤上静時無一戦歩兵翻作成金光

三才圖會　將棋ハ信長公の時より起る　將棋經ハ玉ハ玉王なり角ハ角行桂ハ桂馬香ハ香車王と称するハ龍王の事飛車歩兵ハ龍馬と事なり駒をおゝべさて金銀のこゑのこゑざるハいづれもてもふてるかりのと身よつゆされくゆゆひ侍り

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

番夜作　高直

藥鑵寒天獨不氷中番何事是相應
小僧今夜廻町内酒代明朝又一升

自身番のてい[illegible]町入用の多きとかげく詩也
年中行事

[illegible]ハ白子屋よ
[illegible]ねへ[illegible]

大道聞吹笛

音淨風鈴蕎麥還月明横町物干間
借問按摩何處去笛吹一夜過玄関

風鈴蕎麥　食物本草　[illegible]夜[illegible]似ル非ル
ものなり大平よりり上おきありて毒かー　按摩
の笛とふく事近比の事ありいかー薩摩いも笛と
ふきー事あり此玄関ハいづくとさるや上ま横町
ものかりの間とあんを町いーやら名主さまう
但山師のぐんぐハらなりての中番てきーーまう

題長命主人壁　長馬

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

世人結交須四目四目不塗悅不深
縱令洗濯共相穢眞是悠悠快美心

長命九元祖明應年中より代々長崎にて寛永年中御當地へ賣ひ出し両國米沢町四目屋が招牌
ゑ〳〵〳〵り危檣九八至〳〵近世のものあり
詩の心いとゞ〳〵て解をぐ〳〵

漁舟詞

漁師遠上本船端一片棒株萬仞瀾
今日何須怨無獵暴風不度相模灘

漁舟ハ沖釣の舟なり棒株ハ海上の地名帚さゝ
ゑよゐのもゝとの類漁人道ある屋より出さり相模
灘ハ御濱の沖まあり
石花風のうゑなり

壯年行　無勝負

擧扇谷風小野川分開常少快晴天
一擲千金渾鼎負柱徒四本不知旋

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

谷風名ハ梶之助奥州の人なり小野川名ハ喜三郎
大津の人なりともく相撲のもじまりハ日本記垂
仁天皇七年七月當麻蹴速野見宿禰とつる狂歌
師の名の如き男角力をとりし事あり又相撲大全
或ハ四十八手戀諸分等ふるい開秋の寐覚ま東
谷風の開西小野川のせきとあるゆうりうう
そぐもく一擲千金とハ花をもるとよ土俵ぎりよりにめ
居てうち出ーのゝとゞかりり四本柱とうけむりひま
かりまてうる事ともうざるハよゝくのをまふぞれ
ともくゝり少快晴天とハ晴天十日のうちとゝく雨
のふるとゝいめくゝより晴天八日のさゞめるりしゞ安永
七年戊戌三月廿八日より深川八幡まて角力興行
ありし時より十日
とありしとゝぶ

帰鷹　錢氣

柳原何事引連帰眉碧月明両國圻
二十四錢沽夜裴不堪清左共浮飛

古詩云二十四文明月夜と云ゝ夜裴きぐる和名鈔夜
と待ゝ裴ゝると夜裴ゝるよ庭訓往来遊女夜裴之
輩云ゝ清左
せんぎゝ集酒異名

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

於職

郭中無處不繁華於職毛氈新造斜
茶屋挑燈傳蠟燭三絃散滿五町家

其角十牛賛 やこの夜もうつくしう月夜このわ
とひとく繁花ゐざる所ゐ詩の心ハらんずとぞ

御
事

送客茶石州

一向千家樂自分薄茶乱點説紛紛
手前今日誰相見遠石州中有拔群

千家 茶人系譜 千利休 遠州ハ小堀遠州 石州ハ片
桐石州とのゝ流義とゐ川柳傳 四畳半蓼
酢をまゐ〳〵のこゝとをひ
いろ〳〵あゐれゐりも出来さり

永久夜泊 永久橋ハ崩橋
の北よゐり

鼻落聲鳴蓬掩身饅頭下戸拔錢緡

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

味噌田樂寒冷酒夜半小船醉客人

船饅頭ハ食類よあ〜ど船中の遊女をいふ古がらやく
のもちよとりつる高名の遊女ありしとうや 英一蝶朝妻舟賛

あぐーいのぐるとよせてハうる波枕と
いるもの類ゆてひんのよれ物ゆり

楊枝鄽詞

矢大臣門淺草濱數株寒木自生春
晩来豆散鳩如雪飛入本堂不恐人

矢大臣門ハ淺艸寺の東門とかん木ハ楊枝
なり 柳樽 中ほしこせせんさいむりか鳥をあひ

自北州至酉戲呈之花又村諸
君

芋魁熊手拂錢堆無客不言花又回
土堤近所遠千壽盡是女郎寐後来

芋魁くまでハ酉の町の名物ゆり酉の町とハ 江戸年中物見岡
鷲大明神ハ舊西花又村より毎年十一月酉の日

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

とて以て祭るとと云々今土手とよび千壽に出でせ
出来て御祈禱くの声をよびきし天明四のとし
霜月九日十日ともくれ竹のゐしと町なる扇巴屋の
ミせびらきありしが十日ハ酉の日なれバつらなく余
丹坊蔦唐丸根雨露住など土手の酉の
市にあそび侍りしと 巴人集 にこえより

山下即事

煮肴賣切鮟鱇殘店上蒲焼炭火寒

蹴轉含情已無限莫教振袖倚闌干

濱田屋が札に云煮肴賣切申候
かくゆきハ佛店の名物なり

宴杖頭錢

百の錢をいふ 其磧 繪本譬草 一升樽と百の錢に手が附ばその
俗ことなるとそやし 雜文穿袋 一枚頭ハ百文なり二枚頭ハ二百文なり妾ハ儒者の 小遣帳 出

一升匏有一升貪百貫裸無百貫人

能向店前錢回醉先沽古酒莫辭新

諺草 一升いるふくべハ一升いる 又 男ハ裸百貫と云
古酒と新酒に七分三分の割ありとし折助が口傳

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99
ガラス使用

あり 萬葉集 太宰帥大伴ノ旅人歌 よろづ物を思ふ
もふひとつきの濁れる酒と飲むべくあらしといふも此

詩と同腹
中あり

一 服麻葉益 そそぐと呑ハ應吝
あきつしまやまとのくにのをのがはらのまつばらのうへにあをによしならのみやこをとほみかもみやまのあをによしかはらのうへにあをによしくまのうらのあをによしこのうらのあをによしてらのうへにあをによしなにはのうらのあをによしかはのうへにあをによしあをによしとは草の名なり

秋染龍王葉半紅甲州西望草平空
たつたがはにもみぢ葉ながれてくれなゐなるみなとのわたりかも

誰知狼犬河原意服部蕭蕭國府中
たがそこのけものとよ 河東廓家櫻 たがそこもけものの花の
雲おいね河原近年くゆり物あり万象亭が 新女意題
よ二行のこと 西望とハ馬よつけてくるとて 草平空とハ

龍王 烟草名 甲州又同 川柳点 たつたとも甲州月

馬鹿集 神明の妓仙臺の客を對して曰ハ おいのぐるぐるぐるぐるぐるぐるこのうるうるぐるぐるひくくあきれる服部 國府

みふ烟草名 蕭々とハ少々と云事 ふさうハ
きくこんぶ烟草鋪障子よ云諸國名葉色々

書院 式禮一

時主珍客引相過演禮雙方盡綺羅
無限廣間行欲盡圍居深處數奇多

国立国会図書館 狂詩諺解 208-99

ガラス使用

208
99

時圭 [名物六帖] 自鳴鐘トケイ 演禮 [中庸] 禮儀三百
威儀三千 委ハ [小笠原躰方] よくらう 囲居 [茶湯秘傳]

よくハー數奇ハ物ごゝろの多きとゝおざーきのきれい
さおりこいのお物ごゝろ御茶の服加減お料理のあんぐい

珍客と亭主と双方ともに機嫌よくめでさくの若
松さアまアよろへごもさろアつて葉もちゆうぐるおめ

でゝやちよのゝ子おめでゝやせんきう
ぐんぜいくぐんぜいく万々歳

狂詩諺解 終

江戸書林文苑閣藏版目録 播磨屋勝五郎 日本橋北通十軒店

頭書圖解 四書略解 蘭溪先生著 附録共 全十一冊

世ニ俗語ニテ經典ヲ解ノ書多シ然レ共未一モ童蒙初學ノ爲ニ其要ヲ得モノナシ今此書ハ解トコロ約ニシテ能其本旨大要ヲ明ニスルニ至テ深カヲナリ且上層ニハ本文國字ヲ注其間ニ古ノ宮室器物ノ類ヲ審ニ圖シ言ニテ解難モノヲシテ一目ニ瞭然ナラシムサレバ舊來行ハルヽモノトハ實ニ天地懸隔ニテ唯童蒙ノ早ク道義ヲ發明ハルノミナラス講義ヲ試ノ人モ其益ヲ得ルヿ少カラザルナリ故ニ海内ノ人家必一本ヲ貯ヘラルベキ書ト云ヘシ

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

208
99

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用

帝國圖書館藏

国立国会図書館　狂詩諺解 208-99

ガラス使用